

項目	自己評価	中・長期経営目標	短期経営目標	主な取組内容	取組内容の評価指標	達成状況	改善方策	学校関係者評価書	学校関係者評価	
確かな学力	A	○全国水準以上の確かな学力の育成	1 基礎学力の定着 2 思考力・判断力・表現力の育成	学力向上のための組織的な校内研修体制づくり	①研究部の各部、教務部の学力調査分析部会と連携し、研究推進の進行管理を行う。 ②児童に「身に付いている力」と「身に付けさせたい力」を明確にし、学年の系統性に於いた言語活動、提示の仕方、表現のさせ方について子どもの育ちや学ぶ姿を主体とした校内研究会を組織的に実施する。	①学校評価アンケート(教職員用)で「研修計画どおり実施し、学校としての研修が深まった」とする教職員100%(H24:100%) ②学校評価アンケート(児童用)「学力が向上した」と回答する児童90%以上(H23:94%/H24:83.2%)	①「研修が深まった」教職員は100%であった。 ②「学力が向上した」と回答した児童は87.9%で目標には及ばなかったが昨年度比+4.7ポイントの上昇。	①事前協議を含めた授業研究を引き続き計画的に行う。 ②単元及び授業の導入で、付けるべき力(学習のめあて)を児童に明確に示し、まとめの段階で、それに対する評価を行う活動をスタンダードとする。	①教員の意識や力量が高く、質の高い教育活動が展開できていて、高い目標をおおむね達成している。 ②図書や新聞資料を活用した授業の計画的実施86.7%は素晴らしい。 ③夏休みの宿題にしても、子どもの学力に合わせて、幾種類もの宿題など意欲的に取り組んでいた。 ④先生方の研修を受けての自己評価は高いが、子どもたちへ上手に伝えられているか疑問もある。 ⑤来年度に向けて、引き続き計画通り実施されることを期待している。	S
				子どもにわかる授業づくり(授業づくりスタンダードの活用など)	①「授業のスタンダード」による授業の実施、教師も児童も見通しの持てる「ユニバーサルデザインの授業」づくりの研究を実施する。 ②「授業評価表」を活用して授業の検証と改善を行う。 ③図書資料や新聞を活用した授業計画を作成し、実施する。	①学校評価アンケート(教職員用)で「分かりやすい授業に努めている」とする教職員100%(H24:93.8%) 学校評価アンケート(児童用)「授業が分かる」と回答する児童90%以上(H23:98%/H24:88.3%) ②授業評価アンケート(児童用)3.8点(4点満点)以上 ※校内授業研修平均値(H23:3.7/H24:3.8) ③図書資料や新聞(新項目)を活用した授業の計画的実施90%以上(H24:92.9%)※「そう思う ややそう思う	①「分かりやすい授業を実践している」教職員は93.4%であったが、「授業が分かる」児童は91.9%で目標を達成。 ②授業評価アンケート(児童用)3.7点(4学年平均値) ③図書や新聞資料を活用した授業の計画的な実施は86.7%であった。	①②各学年の課題である学習単元においては、単元の終末等定期的に授業評価アンケートを実施する。授業研などにおいて「身につける力」と学習の系統表を再確認し、各指導事項を確実に指導する。		
				学校全体で予習・復習(宿題)の質と量を高める取組	①PTAと連携し、「予習・授業・復習」のサイクル化を図る。 ②生活・学習習慣調査を5月・9月に実施し、その結果を本人・保護者に返す。	①生活・学習習慣調査で「予習・復習をしている」70%以上(H23:H24:予習75%・58.2%、復習67%・79.7%) ※している。どちらかと言えばの平均値 ②学校評価アンケート(保護者用)で「家族ぐるみで子どもの学習環境整備や学習習慣づくりに取り組んでいる」80%以上(H24:79.1%)	①「予習・復習をしている」児童は予習57.1%・復習69.7% ②「家族ぐるみで家庭学習習慣づくりに取り組んでいる」保護者は80.9%で目標を達成。	①目標を達成した項目もあり、成果が表れてきているので、引き続き児童への指導と共に保護者と連携した取り組みを続けて行く。 ②調査結果などを基に家庭への声かけを続けて行く。		
豊かな心	B	○夢や希望をもち、その実現を目指して努力する高い志や態度の育成 ○互いの違いや特性を理解し合い、協力してより良い生活しようとする心や態度の育成	1 道徳授業の改善 2 自己肯定感や規範意識の向上 3 道徳的実践力の向上	①全担任が道徳の授業研究を行い、授業評価表による検証を活用して授業改善を図る。 ②特別活動や総合的な学習との関連化をいっそう進め、高い志をもつ児童の育成、道徳的実践力の向上を図る。	①県道徳意識調査結果「そう思う」の上昇(強い肯定)5月・12月全学年実施 ・「道徳の勉強が好き」55%以上(H23:48%/H24:53.5%) ・「将来のために今頑張りたいと思う」(新項目)83%以上 ・「近所の人に会ったときは、あいさつしている」83%以上 ・「自分には良いところがある」60%以上(H23:54%/H24:54.2%) ・「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している」83%以上 ②児童に道徳的実践力がついたと実感できる変化が見られる。(cf自主的にゴミを拾う等)	①県道徳意識調査(12月調べ)の「そう思う」割合(全学年)が ・「道徳の勉強が好き」48.2% ・「将来のために今頑張りたいと思う」83.3% ・「近所の人に会ったときは、あいさつしている」77.4% ・「自分には良いところがある」54.8% ・「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している」61.7% という結果であった。 ②「自主的に通学路のゴミを拾える。トイレの履物の整頓が進んでできるようになる。」等、児童に道徳的実践力がついたと実感できる場面が見られた。	①さらなる道徳の授業の充実を目指して、これまで積み上げてきた実績の継承と共に保護者地域と連携した取組も取り入れたい。 ②道徳の授業で身に付けた道徳的実践力と全教育活動を通じた道徳性を育む指導とを重ね合わせて、一人ひとりの道徳性を高めて行く。	①全てにおいて、高い目標をおおむね達成している。 ②公開授業や研究授業を通して、子どもに適応した授業改善に積極的に取り組んでいる。 ③道徳教育の実践においても、学校内外での挨拶、交通ルールを守る、ゴミ拾い、トイレの履き物整理等、子どもたちが進んでできているのを感じる。 ④自己評価については、数だけでは評価できない点が多々あると思う。アンケートのとり方を無記名にしてみてもどうか。 ⑤「将来のために今頑張りたいと思う」との目標83.3%達成など、地道な教育の成果が表れている。 ⑥子どもたちが、道徳を身近に感じているようである。更なる高い目標に向かっての努力を期待したい。	A	
				①スポーツテストに関する研修実施と保護者への啓発を行う。 ②体力向上ロードマップを作成し、計画的な体力向上策を実施する。 ③学期毎に業間体育週間を設け、運動に親しませながら体力向上を図る。 ④外遊びを奨励し、外遊びが活性化する取組を行う。 ⑤生活・学習習慣調査を年間2回(5月・9月)実施して、分析を本人と保護者に返して、定着化を図る。また、高学年で「テレビ・ゲーム視聴プログラム」の取組を実施する。 ⑥避難訓練を改善して実施する。	①体力テストの総合点が全国平均以上 ②③「運動することが好き」・「体育の授業が楽しい」90%以上(H24:93.8%) ④「昼休み外遊びをした」児童(新項目)年間通じ70%以上 ⑤生活習慣調査で「6時半までに起きる」65%以上(H24:54.4%) ⑤テレビ・ゲーム視聴時間1時間以下50%以上(H24:48.0%) ⑥朝食で「主食・主菜・副菜・汁物の内、3つまで揃っている」65%以上(H24:52.9%) ⑥避難訓練(地震)実施3回以上	①体力テストの総合点が全国平均を上回った。 ②③「運動することが好き」・「体育の授業が楽しい」96.5% ④1月調査予定 ⑤「6時半までに起きる」児童59.0%(平日)+4.6 ⑤テレビ・ゲーム視聴時間1時間以下47.9%(平日) ⑥朝食で「主食・主菜・副菜・汁物の内、3つまで揃っている」60.5%(平日と休日)60.5% ⑥避難訓練(地震)3回実施 その他、起震車体験・昭和南海地震パネル展や火災避難訓練の2月実施	①②③④外部指導者を計画的に招聘して、指導と助言を仰ぐ。 ⑤「けがやトラブルを防ぐためにも運動や遊びのルールをしっかりと指導する。 ⑥更に、家庭との連携が取れるような手立てを考えて行く。 (例:生活リズムチェックカード等) ⑤保護者に対してもテレビ・ゲーム視聴時間に関して啓発の便りの配布や、教育相談時の個別指導をしていく。 ⑥朝食に関しては、養護教諭と栄養教諭との実態を踏まえた連携した取組と共にPTAと連携をした取組の改善策を検討する。 ⑥保護者や地域と連携した、災害時の引き渡し避難訓練等を実施する。			
健やかな体	B	○自分の体力や運動能力を知り、その保持・増進を図り、将来に向けて健康管理や危機対応のできる力の育成	1 全国平均以上の体力や運動能力の育成 2 基本的な生活習慣・運動習慣の定着 3 危機対応能力の向上	①学校だより・学級だよりで学校・学級の取組や子どもの育ちを具体的に伝える。 ②学校ホームページの更新をこまめに行い、学校行事や取組を分かりやすく伝える。 ③学校支援本部の活用計画を立て、計画的な実施と振り返りを行い、次年度に生かせるようにする。	①学校評価アンケート(保護者用)で「情報提供を積極的に行っている」90%以上(H23:92%/H24:87.1%) ②ホームページの更新が年間6回以上(H24:年間5回) ③学校支援ボランティアの活用延べ人数300人(H23:298人/H24:298人)	①「情報提供を積極的に行っている」95.2%で、+8.9ポイントであった。 ②ホームページの更新は25回以上であった。(H26.1月末) ③学校支援ボランティアの活用延べ人数は248人(12月末現在) ※読み聞かせ、学習支援等	①②HPの更新を継続して行く。 ③学校支援ボランティアによる支援は、学校教育活動の質を高める上において非常に重要であり、活動の場を工夫すると共に、新たな協力者の登録も呼びかけるようにする。	①おおむね目標は達成されている。 ②体力テスト結果も全国平均を上回っている。 ③朝食の内容をより具体的に4項目挙げ、その3項目達成率が60%を上回っていることや、このように細かい調査項目を考えて実施することは素晴らしいことであり、他の学校のモデルと成り得る。 ④基本的な生活習慣の確立を目指して、着々と成果を挙げていることは、来年度への取り組みに一層期待できる。 ⑤避難訓練(地震)を3回実施できたことは評価できる。今後、保護者や地域と連携した訓練の実施が望まれる。	A	
				○保護者や地域住民の参画を得た学校運営の推進	①学校だより・学級だよりで学校・学級の取組や子どもの育ちを具体的に伝える。 ②学校ホームページの更新をこまめに行い、学校行事や取組を分かりやすく伝える。 ③学校支援本部の活用計画を立て、計画的な実施と振り返りを行い、次年度に生かせるようにする。	①「情報提供を積極的に行っている」95.2%で、+8.9ポイントであった。 ②ホームページの更新は25回以上であった。(H26.1月末) ③学校支援ボランティアの活用延べ人数は248人(12月末現在) ※読み聞かせ、学習支援等	①②HPの更新を継続して行く。 ③学校支援ボランティアによる支援は、学校教育活動の質を高める上において非常に重要であり、活動の場を工夫すると共に、新たな協力者の登録も呼びかけるようにする。			
保護者地域との連携	A	○保護者や地域住民の参画を得た学校運営の推進	1 学校の情報を伝える工夫の実施 2 学校支援本部の計画的活用	①学校だより・学級だよりで学校・学級の取組や子どもの育ちを具体的に伝える。 ②学校ホームページの更新をこまめに行い、学校行事や取組を分かりやすく伝える。 ③学校支援本部の活用計画を立て、計画的な実施と振り返りを行い、次年度に生かせるようにする。	①学校評価アンケート(保護者用)で「情報提供を積極的に行っている」90%以上(H23:92%/H24:87.1%) ②ホームページの更新が年間6回以上(H24:年間5回) ③学校支援ボランティアの活用延べ人数300人(H23:298人/H24:298人)	①「情報提供を積極的に行っている」95.2%で、+8.9ポイントであった。 ②ホームページの更新は25回以上であった。(H26.1月末) ③学校支援ボランティアの活用延べ人数は248人(12月末現在) ※読み聞かせ、学習支援等	①②HPの更新を継続して行く。 ③学校支援ボランティアによる支援は、学校教育活動の質を高める上において非常に重要であり、活動の場を工夫すると共に、新たな協力者の登録も呼びかけるようにする。	①全てにおいて、目標を達成している。 ②先生方の愛情を感じる広報活動。学校・学級便りの取り組み。 ③HPの更新が速やかで、最新の情報が多くあり、学校の取り組みが評価できる。 ④学校支援ボランティア248名(12月末)、3月までだと目標の300人活用は十分超える見込みである。	A	
				○今後増加する若年教員の育成 ○激しく変化する社会情勢の中で、様々な課題に対応しながら全ての児童の力を伸ばすことのできる教職員となるための資質・指導力の向上	1 研修機会の確保、内容の工夫 2 PDCAサイクルによる組織的な授業研究の充実	①各教科(国語科は全員)と道徳で、各人年間1回(計12回)の授業研究を行う。 ②学校事務、学力や体力の向上、特別支援教育など、課題となるものについて、研究部・教務部・学力調査部・体育部などで計画をし、確実な研修の実施と活用を図る。 ③人事評価制度を活用して、各人のライフステージに応じたスキルアップを図る。 ④キャリア教育の視点に立った教科・領域における指導法の研究(「キャリア教育推進地域事業推進校」)を行う。	①授業評価アンケート(児童用)の結果3.8点(4点満点)以上 ②授業力診断(教員用:自己評価)で、年度当初の診断結果より年度末の診断結果を上昇させる。 ③学校評価(教職員用)や人事評価の結果、全教職員が「自己の指導力・職能が向上した」(評価3以上の肯定的評価)と回答できる。 ④キャリア教育年間指導計画・全体計画の作成率(新項目)100%			①授業評価アンケート(児童用)の結果3.7点 ②授業評価アンケート(教員用)のみの検証しかできていないため評価が明確でなかった。 ③学校評価(教職員用)や人事評価の結果、全教職員が「自己の指導力・職能が向上した」と回答した。 ④計画通りに作成できた。